

犠牲を甘受して...

「誓新」の悲壯な決意

大瀧問題の筆禍を動機に 勇躍突進を期す

同業警城新聞が去る三月中旬、元本縣土木課長東森藏氏が現任地たる栃木縣に於て收賄問題を惹起したと各新聞紙に報道された當時同新聞もその醜状の内容を報道し併せて

同課長

が本縣在任中彼の半電氣會社に不當發電所許可を與へるに至つた兩者の關係より説いて巷間傳へられた風説即ち半電氣と東課長との間に何等か請託關係ありしにあらざるやの説をその儘掲載したるに同會社代表栗原欣次郎氏は會社の

信用

したものとして平檢事局に告訴を提起した、其の後問題に宮崎檢事係り原被兩者を取調べた結果被告は新聞社としての立場と權威の保持上材料の出版を發表せざる爲め結局法に照らし罰せざる可らざる事情に到達したが宮崎檢事は温和主義に妥協の得策なるを説き「原告の面目の立つ様取り消し文の掲載」を條件に

和解を

兩者に謀つたけれども被告は半三萬町民の爲めに素より犠牲を覺悟し始終不斷の努力を以て平電氣會社攻撃の矢表に立つ以上屈辱的の取消を以て

驛前商市場を開設する事既記の如くであるがその隆盛を期する爲めに組合員一同金華山の黄金山神社に祈願をこめた

焼酎會社の 對策を講究

酒造組合が

石城郡五十四の酒造家より生産する焼酎は年々七百石に達し夫々附近の需要を充たしつゝあるが最近相馬郡原の町に大規模の焼酎製造會社が創立され極めて大量の生産をなすと云ふので右實現の曉は地方當業者にとつて一大脅威であると云ふ處から同郡酒造組合では昨今寄々對策を研究中である

桶屋に移す

徴兵署 狂壯丁に 司令官が降参

去九日から初めた石城郡壯丁検査當日の檢丁草野村大字下神谷字宿伊之松三男坂本義永は數年前から精神病に罹り静養中を受檢の爲實



家庭 關

狂犬に咬まれた時、此れからは狂犬の暴れる時節です。かみつかれると、犬は狂犬になることばもち論ですが、人間はかまれた

便所の中で 驛員の怪死

一實は心臓麻痺で

常警線綴驛々手石城郡泉村大字下川原字畑中田邊止己(三)は十一日午前九時卅分頃貨物列車より芝居道具十數個を數名と共に搬出して居たが暫くして乗降客用便所内に同人の倒れて居たのを驛員が発見し直ちに介抱すると同時に酒井醫師の應急手當を受けしめたが蘇生するに至らなかつた同人は常に身体が弱かつたから心臓麻痺であらうと

不平受付

投稿

水道の濁り水 水道の水が金たらいに少じづたれて居るのを見ると薄黒く濁つて居ます、これは平水道の欠陥と思つて居りますが何んとか設備を構じてこれを除く事が出来ないものでせうか (心配生)

不平受付

投稿

香野水道課長の答 香野水道に故障があるのです、お名前を水道部にお知らせ下さい早速調べて修繕する事にします

常磐片々

例の栗原欣次郎君が同業警新を大瀧問題で名譽毀損の罪に陥らせた

大浦村の 條桑育良好

多數が見學

石城郡大浦村の春蠶飼育家二百七十六戸の殆ど全部が條桑飼育で良好なる成績を示し各地から多數の見學に接してゐるが同飼育は努力と桑葉の節約を主眼とする經濟經營で多少の危険を伴ふ様にも云はれてゐるが蠶

鑛毒救濟

内郷農會陳情

石城郡内郷村農會では炭鑛の地下開鑿から地盤の龜裂や傾斜を來し鹽分を多量に含む坑内排水が灌漑水に交り常に鑛毒問題を起してゐるからこれが救済のため基金として常警線綴驛撥量一トンに對し五錢の割で積立て、炭鑛經營中の被害に對してはその都度相當に賠償されたいと警城炭坑に交渉したが更に川淵知事にも右の解決盡力方を九日陳情し

兎の耳

眠り続ける女

日夜九時五分上野驛着横濱櫻木町發の省線電車中、十二三歳の錦仙堅縞の裕着草色の縹子テリンス花模様のをしめた女が列車中に眠つてゐるのを驛員梅村正吉(三)が発見、揺り起した

古河の山神祭

石城郡古河炭礦にては十五日山

神祭を舉行する筈であるが

斜坑の着炭祝を兼ねて華々しく諸種の企てがある

平町人事

出生

△一丁目一七 大瀧三郎氏二男清
△仲間町六六 當時相馬郡原町廣田
△三丁目四 新妻信八氏七男猛
△新川町四 桶屋丹野徳好氏(二四)
△石城郡内郷村大字畑中田邊止己(二二)